

環太平洋ヨットレースの報告(上)
NPO 館山外洋ヨットクラブ
日本チーム スキッパー 村上博幸

4月30日 この日のヨットレースは館山湾内で行われました。日本チームのスタートは6番目と最悪でしたが、向かい風でクローズホールド(ぎりぎり風上に向かっての帆走)で走り、スピードは6ノット(時速12km)でました。最初のブイを回りスピネーカー(追い風用の大きな帆)をあげる時、ロシアとオーストラリアを抜き4位でした。追い風となったので、それ行けとスピネーカーを上げたものの、スピネーカーはフォアステイ(マストを支える前部のワイヤー)に絡まり20cmほどカギザキができました。たいしたことはないとそのまま走りました。ところが突風を受けてヨットは横倒し(ブローチング)の状態になり、風圧でスピネーカーは1.5mも裂けてしまいました。セールにダメージを受け、4位でフィニッシュ。カナダが1位で、ニュージーランド、アメリカと続きました。

5月1日 南西の風が6~7m吹き、レースにはいい風です。スタートは、昨日と同様よくありません。しかし、ぎりぎり風に向かって走り、最初のブイまでにロシアとオーストラリアを抜きました。マーク回航後、スピネーカーをあげ8ノットのスピードで走り、ニュージーランドを追い抜きました。追い風でスピネーカーを上げ、相手をじりじり追い抜く時は、どきどき、スリルがあります。カナダは1位、次いでアメリカ、日本でした。

5月2日 この日は雨もよい。北東の風が10m。コースは大房岬沖にあるブイ回りです。強風のためリーフ(縮帆)で走りました。大房岬の近くで日本はトップにでました。ところが、どっこいレース巧者のカナダが追い上げてきて、ブイ回航の直前に日本を抜きました。オリンピック選手を乗せているカナダの実力でしょうか。追い抜かれるときは、「んー」と悔しいです。ブイ回航後、貨物船がこちらに向かってきました。これを避けるため大きくコースを変更したので、3位に終わりました。何とも惜しいレースでした。

5月3日 今日は、湘南葉山までのレースです。北東の風が12~15m。強風波浪注意報がでています。視界は良くなく東京湾航路の真ん中にでると前も後ろも陸地が見えません。カナダが先頭で風下を走り、その風上をアメリカ、ニュージーランドと続き日本は最後尾にいます。城ヶ島の南西にあるブイを目指し走りました。ブイを回ると向かい風となり、ドカンドカンと波を受けびしょ濡れで寒くなりました。強風の際は、体重の軽い日本は不利で、ヘビー級のチームが有利です。よく大波に耐えましたが、日本は5位でした。

今大会のレースの総合成績は、1位がカナダ、2位ニュージーランド、3位アメリカ、次いで日本、オーストラリア、ロシアの順でした。今回のレースのクルー(乗組員)は、日本、オーストラリア、ロシアは男性ばかりでしたが、アメリカとカナダに一人、ニュージーランドに三人の女性が乗っていました。ニュージーランドは女性がスキッパー(艇長)です。華やかではありませんが、豪胆で物おじしない女性が乗ると強いのです。日本は、まだまだこれらの国には適いません。

最後になりましたが、今回のレースで協力して下さった海上自衛隊、ならびに多くの関係者の方々に謹んでお礼申し上げます。

日本チーム





自衛隊の協力風景



優勝したカナダチーム

